

JICA ボランティア 千葉

SV ニュース 第9号

平成二十年度通常総会開催



隊事務局長 大塚正明氏、JICA千葉デスク 木野本まゆみ氏、千葉県総合企画部国際室 早川夏子氏、JOCV千葉OB会会長 吉田憲司氏が出席されました。

会長挨拶、来賓挨拶の後、議事に入りました。大塚氏および早川氏のご挨拶は第二頁に掲載してあります。

五月三十一日(土)午後一時三十分より四時まで、平成二十年度通常総会が千葉市国際交流プラザ会議室にて開催されました。会員三十三名、新帰国者五名が参加し、来賓としてJICA青年海外協力

品川会長挨拶



内諸団体、JICA、JOC

発足以来五年経過しました。その間に諸氏の協力により千葉県の活動の幅が広がり、県

A内での存在感が高まっています。今後五年先、十年先を見据えた、「無理なく」「愉快に」「仲良く」とする会の基本方針による持続的なボランティア活動を続けたいと考えますので、皆様の一層のご協力をお願いいたします。

隊事務局長 大塚正明氏、JICA千葉デスク 木野本まゆみ氏、千葉県総合企画部国際室 早川夏子氏、JOCV千葉OB会会長 吉田憲司氏が出席されました。

第六回定例会開催のお知らせ
日時 十二月十三日(土)
午後一時~四時
引き続き懇親会を予定
会場 浦安市国際センター

動]について説明がありました。以上を受けて、役員と会員との意見交換の場を設け、活発な質疑がなされました。引き続き上田事務局長より次の新会員と新帰国者計十一名の紹介がありました。



藤家 梓(シリ)、大澤トシエ(シリ)、坂本真理(タイ)、嶋口博彰(サモア)、浦山和良(マラウイ)、北垣勝之(ヨルダン)、木内義郎(マレーシア)、岸隆(マレーシア)、豊永俊之(チュニジア)、柿沼 豊(ケニア)、崎元雄厚氏(タイ)

司会・開会宣言は黒田副会長、議長に品川会長、議案説明は各担当幹事、閉会挨拶を梅谷副会長が行いました。書記には加藤眞理会員と酒井國彦会員があたりました。総会終了後懇親会が京葉銀行文化プラザ内のレストランで行われ、会員二十九名参加の盛会でした。



平成二十一年春のJICAボランティアの募集説明会に集まった方々への応募結果は、一位「人の役に立ちたい」、二位「海外での暮らしや仕事に興味」、三位「もの見方や考え方の幅を広げたい」で、以下「自分の成長につながる」「多くの人と知り合いになれる」「新しい自分に変わりたい」などが続く。若い青年海外協力隊と異なり、長年培ってきた専門性や経験を有するシニア海外ボランティアの方々

特別寄稿 経験を活かして

JICA青年海外協力隊事務局 国内業務担当 次長 笹館孝一

る国際関連施策も従来の「国際貢献」「国際交流」に加え、近年「多文化共生」が第三番目の柱として位置づけられるようになってきている。千葉県においても、全国で六番目に外国人登録者が多く、さらに、この十年間の増加率は全国平均を上回る六十七割という状況の中、県は多文化共生推進のため、NPO等が提案する「外国籍県民が暮らしやすい社会を推進する」事業をモデル事業として資金補助するなど重点的に取り組んできている。

代になってもますます自己への投資として位置づけていることが読み取れる。この傾向は青年海外協力隊員と世代を超えた動機として共通しており、途上国での二年間の価値ある経験を経たシニア世代がこれからの日本や世界が抱える諸課題に貢献しうる存在としての期待が広がる。さて、わが国の外国人登録者数は、平成一九年末現在で二百十五万人と、この十年間で約五分増となっている。この結果、地方自治体が推進す

社会的摩擦が生じているという側面も持つ。その背景にあるものは、政治情勢、住民感情、宗教、文化など複雑であり、コミュニケーションを重視したきめの細かい対応が求められている。途上国において住民と同じ目線に立って活動を開発してきたJICAボランティア経験者が強みとして活かせる領域であること、千葉県JICAシニアボランティアの会の一層のご活躍を確信するものである。

総会 来賓挨拶

JICAボランティア事業の近況

JICA青年海外協力隊 事務局長 大塚正明



本年はJICAにとりまして大変重要な年でありま

す。 JICAが 十月一日、国際協力銀行（JBIC）の有償資金協力業務と外務省の無償資金協力の一部を引き継ぎ、新しいJICAが誕生、世界でも有数の総合的な二国間援助機関となります。新組織の中でのボランティア事業の在り方についてはこれから検討されることとなります。

また、この五月に横浜で第四回アフリカ開発会議（TICAD IV）が開催され、三つの柱（①アフリカの成長の加速化、②人間の安全保障、③環境・気候変動問題への対処）に関して討議されました。その中で、今後日本も日本の役割や日本への期待は多岐にわたること、日本のアフリカへの経済的支援と人的支援が理解され始め、日本人の

仕事に対する姿勢、品質管理の大切さ、マネージメントなど日本の人的支援への関心の深さが見受けられるようになりました。アフリカ人のリーダー達が「援助とは金銭でなく、人である」と認識し、今後、人に対する期待が高まると考えられます。

さらにアフリカ人自身によるボランティア事業も計画され、その模範的事業としてJICAのボランティア事業が挙げられております。さらに、JICAが派遣したOB、OGが日本へ帰国後も自治体・大学との繋がりを含めた活動を行っていることに、関心が持たれていると考えられます。

一方日本社会の中でもJICAボランティア事業に対する期待が高まり、各地の教育委員会や民間企業もJICA海外ボランティアOB、OGを受け入れることにより、日本社会での国際貢献経験者の活用促進が行われています。国際協力は日本の国際貢献の最も重要かつ平和的な手段です。千葉県JICAシニアボランティアの会の皆様も貴重な海外ボランティア体験を日本社会に還元し、国際協力の理解促進に協力して下さい。よろしくお願いをし、これももちましてご挨拶と致します。

自治体の国際協力のあり方

千葉県総合企画部政策推進室 国際政策課 副主査 早川夏子



千葉県では、平成十七年から三年間、わたって「千葉の国際協力」の方向性を

国際協力の専門家や実務経験者と考え方を議論してきました。当初より、何故地方自治体である「県」が国際協力をやるか？という議論がありました。日本では外交の一環として国際協力を専門に実施する機関があり、日々「国際協力をするため」に働いている人々がいまいます。それらの機関では「どの国に重点をおくか」「どの分野が重要か」「このタイミングは適当か？」という議論はあっても、恐らく「なぜ我々が？」を議論することは少ないでしょう。

自治体である県庁は県民の直接的利益になることを考える機関であるため、国際協力といった、必ずしも大多数の県民に裨益するとは説明しにくい事業に予算をつけるのは大変です。また、予算がついたとしても事業一つ実施するの他部署との交渉は本当に

大変です。まず「どうして県が？」何のためになる？」という理由を常に携え説得しなればならないからです。そんな中で「千葉県の国際協力のあり方」を少しずつ整理してきたわけですが、やはりこれは先ず「県民の国際化」や「県民の誇り」を第一目的としたほうがすっきりいくのではないかと考えているようになります。

「地球環境のために」などと大上段に構えず、国際化の一要素として位置づけることです。特に上下水道やゴミ処理、消防防災などは市町村等の行政レベルのノウハウが高い分野もあります。これらは直接的な「国際貢献」のテーマであり、また県のプレゼンスアップ、国際化の一環でもあるということです。

南房総市にベトナムで道の駅システムを構築しようとしている方が居られ、数年前に道の駅専門家としてタイへ呼ばれて行ったそうです。その方面では国内屈指の実力者ですが、タイへ行ってみると自分の経験やアイデアを熱心に聞いてくれる人、これを採用しようとする人がいるということ、なんか人生が救われた気がしたとおっしゃっていました。その話を聞いて、実はこのような「誇り」を持つ、持ち直すためにも国際協力に

参加する意義は高いと感じたわけですが。

特殊な知識や技術を持っていないと国際協力はできないかというところではありませぬ。例えば、松戸の小中学校では不要になった机や椅子をカンボジアへ寄贈してあります。子供たちはそれまで机や椅子なしで勉強している子供たちのことに思いを馳せることはなかったでしょうし、この記憶はいつまでも残るでしょう。その後も学校間でゴーヤの種のやり取りなどで交流しているようですが、これらの経験はお互いの子供たちの世界観形成に影響するでしょう。

市川工業高校の生徒はネパールで世界遺産の建物の実測調査をしています。国際協力という側面と教育的価値、職業選択への影響とその重みは計り知れません。

長くなりましたが、これらは結局、国際協力は一方向ではないということ、沢山の方々に理解して頂き、無理のない形で参加してもらおうというのが今の我々の方向性に繋がっています。

会の皆様も、ご自身が得たことについて周囲の方々にお伝えいただくことで、国際協力への参加者の裾野が広がり、厚みが増えてくると思えます。

千葉大学講座参加

千葉大学教育学部 吉田雅巳教授の授業の一部を担当し、「国際理解の実践」分野で「世界に貢献する日本人、シニアボランティアの海外体験より」の副題で当会会員六名が講師となり、五月十八日(日)、六月十五日(日)の二日間に集中講義形式で学生に講義を行いました。

講義は赴任国の概要、社会の特色、現地活動の環境、成果、問題点、今後の課題等を中心として、また、シニア海外ボランティアに必要な心構え、問題の解決例、ODAの現状などが説明されました。



後藤 優 講師による授業

当会にとつては初めての試みでしたが、出席学生の講義への興味や関心は高く熱心に受講していました。講座後、吉田教授より今回の当会の対応を評価した次の内容の総括を頂戴しました。

講師名	赴任国	現地業務	講義時間
影山 洵	サモア	業務調整員	90分間
影山 洵	ジャマイカ	ボランティア調整員	90分間
横田 勝徳	モンゴル	食品検査指導	90分間
後藤 優	ラオス	グループ調整員	90分間
山本 茂穂	パラグアイ	化学工学指導	90分間
津田 正臣	ヨルダン	金属腐食対策	90分間
楠木 孝雄	タイ	賃金調査指導	90分間

『今回のシニア海外ボランティア経験者による講義は成功といえる。来年以降もより工夫した内容で実施したい。学生の関心はODA、国際情勢より、より身近な現地の社会状況や市民の生活にあることが分かった。』『講義の時期を六月下旬乃至七月上旬とし、自分(吉田教授)の準備的講義を先行して授業の効果をあげたい。各講義の持ち時間を百八十分程度とし、講義内容を充実する。結果として講師の人数は少なくなる。また、講義の内容に各国でのODAの内容やシニア海外ボランティアの役割、業務体験の詳しい説明、学生の参加する課題討論を加えることを検討して貰いたい。』

第5回帰国報告会開催

国際協力機構(JICA)と当会共催の千葉県JICAシニアボランティアの会第五回帰国報告会が平成二十年七月十二日午後一時三十分より四時二十分までの間、千葉市国際交流プラザ会議室にて開催されました。



第5回帰国報告会会場全景

一般県民の方々、JICA地球ひろば、青年海外協力隊千葉OB会および当会員で約五十名の出席で盛会でした。報告者と演題は次の通りです。(敬称略、報告順)

浦山和良(マラウイ)

品質管理)

「マラウイとはどんな国」

大格登(ヨルダン)

環境・安全・衛生)

「ヨルダン見聞体験記」

大澤トシエ(シリア/縫製)

「シリアでの服飾教育」

柿沼豊(ケニア/柔道)

「ケニアで文武両道を」

北垣勝之(ヨルダン)

学校運営)

「ヨルダン・アカバの思い出」

高木利公(タイ)

情報技術)

「シニア(技術移転)とボランティア(国際交流)のタイを知る」の活動報告

藤家 梓(シリア)

病害虫対策)

「SV帰国報告—シリアの農業事情を中心に」



報告中の柿沼 豊 会員

出席された一般県民の方々からのアンケート調査では、「実際の生の声が聞けて大変参考になった」、「活発な質疑応答でよかった」、「ユーモアたっぷりの報告会で楽しかった」などの声が寄せられました。

閉会后、報告者の方々を囲んで懇親会に移行しました。

会員トピックス

北垣勝之会員が千葉NHK・FMに出演

様々な分野で活躍する「千葉の人物」にスポットを当てて番組「まるごと千葉六十分」で、北垣会員がNHK竹山アナウンサーとのQ&A形式で赴任国であったメキシコ、カンボジア、ヨルダンでのJICAシニア海外ボランティア活動や海外生活よもやま話を放送されました。七月三十日夕方の生放送で、充分聴取者の興味をそそる内容でした。

後藤敏行会員が御所で接見を受けました。

本年三月二十六日、帰国シニアボランティアがJICA総務理事、大塚青年海外協力隊事務局長引率のもと、御所で天皇、皇后両陛下にお目にかかりました。後藤会員はトンガでのボランティア活動、トンガ首相と王室の関係、トンガ王室の歴史などについてご下問に答えました。



接見受けたシニアボランティア (JICA本部にて)

初心者向け「柔道コース」を受け持って 柿沼豊 (ケニア)



私が柔道指導のため派遣されたケニアは一九七〇年代初めに先達により正式に日本の「柔道」が紹介されていますが、まだまだその内容においては揺籃期と言えるのではないのでしょうか。柔道団体もほんの数えるほど、最低限の柔道が出来る施設(指導者、道場、畳、柔道着、ビデオ、DVDを含めた教本類、等々)も数箇所です。

私の配属先での日常の活動は配属先柔道クラブの選手(全員警察官)に柔道を指導する事です。そしてその選手達は柔道の指導者と言う役目で警察官訓練生に柔道における護身術を訓練プログラムの一教科として教えます。したがって私が誤った指導をする事と選手達も間違った指導をする事になり、その点では神経を使い、慎重も期しました。

参加生徒は十六名、十八歳から二十三歳までで全員警察官になって未だわずかです。彼等は学業も優秀な上柔道が好きでケニア全土の各地方の警察署から選ばれた若者たちです。そしてまず私の頭に浮かんだのは是非彼等には私の持論である「文武両道」を基本にした指導をしたいと考えた事です。柔道概論、礼儀作法、柔道場と畳の意味、柔道着の扱い方、柔道家にとつての柔道着とは、教育としての柔道、フェアプレー、スポーツマンシップ、その他ビデオによる「技」や「形」の解説、時には全日本柔道選手権大会ビデオを見せたりして指導内容



実技指導 壁に「心技体」の書がある

題の「初心者コース」です。かなり詳細にわたる内容で指導時間割も朝八時から夕方五時まで実技と理論(昼食一時間と午前と午後の二十分ずつお茶の時間あり)、土、日は休みでこれが八週間続きます。

に変化をつけました。それにより世界的に有名なスポーツ選手を例に挙げ何故その選手が世界に通じるようになったか、その陰には人に言えない「努力」があった事を話したりもしました。「文武」については日本人の精神と伝統文化のかけらを少しでも伝えたい個人的義務(?)もありましたし、ケニアの若者に柔道だけをして学問を怠って欲しくありません。柔道を修行する事で「文武両道」を理解しケニアの将来を背負っていく人間になってほしいと心から感じたからです。最後にもう一つ彼等自身に考えさせて書かせる試みをしてみました。具体的には、何故柔道をしたと思ったのか? どのような柔道選手に成りたいのか? この「コース」では何を学びたいのか? 週間レポート(週ごとに思った事、考えた事、不満、何でもよい) 修了の為の筆記試験(昇級試験の一部としてコース全般で習った内容)

以上の内容ですが正直、何処まで真剣に考え、書いてくれるか不安でしたが十六名全員がそれぞれ個性ある字(英語)で回答してくれました。私は彼等の書いてくれた内容を見てお互いの距離が一挙に

縮まり、ちよつと大袈裟ですが国境を越えた師弟関係が生まれたような気がしました。将来彼等とは簡単に会えませんが、私にとって彼等と過ごした八週間は一生の宝物になるはず。

ヨルダンでの シニアボランティア活動 北垣勝之(ヨルダン)



二〇〇六年四月から二〇〇八年三月まで二年間、ヨルダン国アカバ職業訓練校に所属、校長をカウンターパートとする学校運営コンサルタントに就任しました。

今回のシニアボランティア(以下SV)活動は、JICAが主導する職業訓練強化プロジェクトの一環として行われ、したがって従来のSV独自の使命に加え、関係するJICA専門家や青年協力隊(JOCV)の諸君とも協力しながら進める必要があります。



Adel 校長(中央)と筆者(向かって右隣)

クトチームへの協力、の四
 テーマを掲げて学校運営改善
 に取り組みました。校長のV
 TCマネジメントは単にパイ
 ロットコースに留まらず幅広
 い経営管理に及ぶからです。

アカバVTCには他にも自
 動車修理・電気配線・木工・
 コンピュータなど各種コース
 があり、数ヶ月から一年間に
 百八十〜二百人の訓練生を教
 職員三十名でトレーニングし
 ています。校長は超多忙で私
 との懇談時間を見出すことさ
 えままならない状況でした。
 それはVTC決済事項が校長
 一人に集中していたからで
 す。このような問題を含め改
 善すべき提案事項はなるべく
 文書にしてコンサルティング
 に当たりました。任期後半に
 は運営改善ノウハウとして次
 の“Better Management”十巻を
 提出、改革意識の喚起を行
 いました。①リーダーとしての
 行動要件、②五W一Hによる
 会議の勧め、③データベー
 ス・システムの開発と活用、
 ④五S運動の勧め、⑤仕事人
 を育てること、⑥VTCの
 キーパーソンはインストラク
 ター、⑦目標管理制度の導
 入、⑧民間企業との付き合い
 方、⑨文書による広報のあり
 方、⑩VTC事業の将来に向
 けて（以上タイトルのみ。）

ないかと自負しています。

**タイ・チェンマイでのボラン
 ティア活動**

坂本真里 (タイ)



二〇〇六
 年四月〜二
 〇〇八年三
 月まで、タ
 イ内務省土
 木・都市計
 画局チェン
 マイ県事務
 所にて、シ
 ニアボラン
 ティア（以下
 SV）チーム
 派遣の業務
 調整を行いま
 した。チーム
 構成メンバー
 は、都市計画
 担当SV、景観
 保存担当SV
 と私の四名で
 した。

チェンマイは七百年以上の
 歴史を持つ北部タイの古都で
 すが、近年開発が進み様々な
 都市問題が発生しています。
 特に無秩序な都市拡大による
 交通渋滞や住環境悪化、緑地
 の減少、歴史的景観の阻害な
 ど早急に取り組むべき課題が
 山積みしています。そのよう
 な現状の中で日本人SVに求
 められていたのは、日本の都
 市計画や景観保存の成功例、
 失敗例、さらにその経験の中
 から何を学び現在の制度に生
 かされたかという経験の共有
 化でした。都市計画改訂の住
 民説明会、地方自治体職員へ

の地方分権セミナー、またS
 V自身が企画した景観保存と
 まちづくりセミナー等におい
 て、タイのカウンターパート
 と協力して日本の経験を伝
 え、住民組織や自治体も交え
 て様々な意見交換をしてきま
 した。都市問題の改善はわず
 か二年間の任期で目に見える
 効果や結果が現れるものでは
 ありませんが、少なくとも日
 本の事例紹介によって、今後
 の地方主体のまちづくりや都
 市計画制度改善の中に小さな
 種を蒔くことができたのでは
 ないでしょうか。



中央右の黒服の女性がサンカムページ郡自治体の長

また、SVとして活動した
 ことよって様々な気づきや
 学びもありました。現在、地
 方分権の過渡期にあるタイに
 て、地方の中堅公務員や自治
 体職員の方々と身近に接する
 機会が持てたことで、中央省
 庁と地方の認識の格差、中央
 の思惑と住民運動の板ばさみ
 になって悩んでいる中堅地方

公務員の実態も目の当たりに
 しました。この活動を通じて
 知り合った人々との人脈を大
 切にして、今後もタイの地方
 での動きに注目していきたい
 と思います。

SV活動の継続的発展とし
 て、チェンマイにある農業系
 大学（メージョー大学）建
 築・環境デザイン学部と連携
 して、都市の緑地・特に街路
 樹保全に関するプロジェクト
 を進めています。これは任
 期中に実現した短期SV派遣
 （チェンマイの緑地・街路樹
 保全に関する樹木医人材育成
 支援）の成果を受け、短期S
 Vとして現地で活動していた
 だいた東京農業大学地域環境
 科学部教授のご協力により、
 メージョー大学での樹木医養
 成講座開設、チェンマイでの
 住民参加型街路樹保全やタイ
 での樹木医制度導入に関して
 人材育成を支援していこうと
 いうものです。都市環境保全
 および景観保全という観点か
 ら、学生や市民が中心となっ
 て街路樹保全の取り組みが行
 われるよう、今後も微力なが
 らお手伝いしていきたいと思
 います。

**シニア（技術移転）とボラン
 ティア（国際交流）タイを知
 る**

高木利公 (タイ)



前派遣地
 のヨルダン
 （二〇〇三
 年秋〜二〇
 〇五年冬）
 から帰国し
 た一年後

に、タイ国のモンクット王立
 工科大学（KMUTT）情報
 技術学部（二〇〇六年四月〜
 二〇〇八年三月）に「最新の情
 報技術の移転」要請に応じ派遣
 された。

同じ親的な国でも、短大
 生達がアラビア語でどどん
 話しかけてきたヨルダンと違
 い、トンブリ（バンコク郊
 外）の大学生達はとて奥ゆ
 かしい（シャイ）感じだっ
 た。私も積極的な方ではない
 のでなかなか馴染めなかつ
 た。タイでは個室（教官室）
 を用意してくれたので、一年
 半は週末も含めて講義用の教
 材（英文パワーポイント）作
 成に明け暮れた。“NHK”
 を見ながらの個室作業ではタ
 イに住んでいる意味がないの
 ではと悩みました。

でもなまいきだけどかわい
 い学生達とのやりとり、帰国
 直前の多くの食事会、学生が
 計画したカンチャナブリへの
 修学ドライブ、そして沢山の
 お土産と「終わり良ければすべ
 て良し」のシニアボランティア
 活動だった。

技術移転活動では、大学高
 学年向けの講義（三単位、週

三時間)を英語で行った。講義タイムは「VOIP(インターネット電話)・・・秋学期」と「ネットワークプログラミング(JAVA言語)・・・春学期」である。トンブリの団地に單身赴任で住み、学部の法要、卒業式(授与側)、謝恩会、学部主催の国際学会等、多くの行事に参加し楽しんだ。



ガウンを着用して卒業式に参列

大学生達を教えるのは初めてだった。講義開始時には数名の学生しかいなくて待って残りは来ない。待ちくたびれて講義を始めるとどこからか学生達が集まってきた。数名の学生が先発偵察に来ており、講義を開始すると携帯メールで全員に通知しているとわかったのは開講して一カ月くらいたってからである。こんな学生達だが最終講義後にバスツアーに誘ってくれた。その時の写真集を日本からも見れるWebに載せてく

帰任後には、作成した教材(英文&タイ語)を利用してカウンターパート(教授)が講座を引き継いでくれるとのこと。教材作成に頑張ったか

いがあったとうれしかった。国際交流(タイを知る)活動では、学校と団地生活の中で学園生活を楽しんだ。毎月一週間は学内に学生相手の屋台村ができ食堂、雑貨、衣料を安価で売っていた。イナゴのから揚げとかも試した。夕食は団地近くのなじみの屋台で済ませることが多かった。カオニャオ(もち米)とソムタム(青パパイヤサラダ)とトムスープにあと一品が定番で

ある。時々おばちゃんがおまけしてくれた。国民性とかはいまだに良くわからない面がある。「跡継ぎは、女性(末っ子)であり、女系家族。」と同期のシニアボランティアから聞いた。「両親が高齢になっても元氣な末娘が面倒を見る良いシステムだ」と思い生徒に確認したら、私の家は中華系なので長男が家を継ぐとか・・・。また「高速バスが来ると皆どっと押しかけ我先に座席を確保する。」でも後から乗るとさつき追越していった若い子がさりげなく席を譲ってくれたりする。日本なら行列は守るけど座ったらず譲らない。家族を大切に人情に厚い生活を送っているのはヨル

ダンでもトンブリでも同じだった。この夏にはチェンマイーバ

初めての海外農業

ボランティア (シリア) 藤家 梓



私は長年、農業関係の研究機関に勤務しており、いづれは海外で農業技術の指導や研究を行いたいと考えておりました。念願が叶い、二〇〇六年四月から二年間、農作物病害虫担当のJICAシニアボランティアとして、シリア種子増殖公団(GOSM)に派遣されました。

GOSMは、シリアの首都ダマスカスから約四百km北のアレッポという場所であり、主要農作物の種子の輸入・増殖・販売およびそれらに関連した試験研究を行っています。ジャガイモはGOSMの主要対象農作物ですが、現時点では毎年多くの種子用

ジャガイモ(種イモ)をヨーロッパから輸入しています。今後、輸入から国内生産に切り替えるという国家計画がJICAの支援の下に進んでおり、現在種イモの生産に重点的に取り組んでいます。ジャガイモ病害虫による減収が大きな問題となつていま



ジャガイモの病害虫調査

私は、ジャガイモ病害虫問題に対応するため、GOSMのカウンターパート(研究パートナー)とともに各地のジャガイモ圃場で病害虫調査を行いました。撰氏四十度を超える炎天下での調査は老骨には応えましたが、幸いにも多くの新しい知見を得ることができました。たびたび農家に招かれ、都会では知らない興味深いシリアの一面に接することもできました。研究環境は十分とは申しませんが、異国での病害虫調査はとても楽しいものでした。その過程で、技術と

いうものは世界共通ともいえませんが、その国の文化や国民性の上に成り立っているといえ、技術援助の難しさも経験致しました。シリアは、正に異文化の国でしたが、生活・文化・国民性に魅せられ、シリアファンになって戻って参りました。英語とアラビア語と身振り手振りを取り混ぜてのシリアの人々との交流、シリアで活動しているJICAボランティアとの交流も刺激的で楽しいものでした。

私にとりましては、初めての海外生活でしたが、多くの方々に支えられ、活動・生活・健康の何れも大きな問題はなく、充実した二年間を過ごすことができました。「海外で農業技術の指導や研究を行う」という夢を叶えていただいたJICA、およびシニアボランティアとしての二年間を支えていただいた皆様に大変感謝しております。なお、日本ではシリアの情報が如何に少ないかを痛感致しており、機会あるごとにお伝えできればと考えております。

※※ 訂正 ※※
SVニュース第八号四頁、大格登氏のヨルダン見聞体験記の三段目、十八行の三千万ユーロは三百万ユーロと訂正いたします。

会員活動便り

浦安市国際センターで講演を

宮崎 泰 (タイ)

浦安市国際センター(JOCAが指定管理者)においては、毎月特定の国を対象として展示・講演が行われています。昨年十月に会社OB会メンバーが国際センターで伊東センター長と面談、平成二十年四月に「イラン」を予定することになり、講演会の企画・講師選定・運営を総て私に任せました。

イランと言う国について一般市民は「理解し難いイスラムの国と一九七九年イラン宗教革命とは？」と言う感覚であろうと想定して、講座を組み立てました。私のイラン滞在経験が昭和四十一〜四十四年の九ヶ月のみで、とても最近のイランについての経験・知識がないことから次のような講座内容を組立て、各講師への依頼・講演内容の調整等を行いました。①宮崎(元三祐コンサツタンツ)「イラン・イスラム共和国と一九七九年イラン宗教革命」のテーマでモデレーター役を果たし、②樋口昭一郎氏(三祐コンサルタンツ相談役、イラン革命まで十八年間滞在、イラン・日本の大パイプ役を務めた)「パフラヴィー国

王時代の近代化政策と社会格差の発生」、③鈴木均氏(JETROアジア経済研究所、革命後のイラン調査研究の我が国第一人者)「イスラム革命以来の改革とそれに伴う政治・社会の変化」。

講演会は平成二十年五月十三日の午後一時から三時までになり、定員六十名と予約なしの人とで七十名位の超満席になりました。参加者にI J P C (イラン・ジャパン・ペトロリウム・コンソシアム)の建設に参加された市内在住の方々がおられ、初対面を果たしました。



宮崎 泰 モデレーター

講演会は大成功で、伊東センター長から「開所以来の大盛況で、市民の企画・参加によるモデル・ケース」との言葉を頂き、千葉市NPOの方からは、「日本最高級の講演内容でとても良かった。千葉市でも開催して欲しい」等々の大賛辞が寄せられました。

私の別のボランティア活動

上田義晴 (タイ・ラオス)

私のJICAシニア海外ボランティア経験は一九九七年から三年間JICAタイ事務所業務調整員、二〇〇一年より二年間は、JICAラオス事務所ボランティア調整員を務めました。人生の大半を過ごした国々とその人々への恩返しを、ということを進めている「私の別のボランティア活動」をご紹介します。

在住外国人への日本語指導

千葉市国際交流協会の賛助会員に登録し、二〇〇四年から千葉市国際交流協会



から千葉市国際交流協会でのボランティアでの日本語指導をしてきました。期間は一年間限定となり、とても少しお互いに継続したい場合も協会の規則で打ち切りとなるのは残念です。

楽しい思い出も数々生まれます。昨年四月から今年三月まで指導したベトナム女性のバオさんは、大変明るく積極的な女性で、日本語指導だけでなく諸々の相談も受けてきました。今でも交信を続けております。

在住タイ人児童・生徒向け「日本語学習コミュニケーション」

私は九年間に亘り滞在したタイには愛着が深く、その恩返しの気持ちからNPO 日本・タイ社会文化交流ネットワーク(山浦理事長)に加入し、千葉市国際交流プラザにタイ人講師を招き今年五月から毎週土曜日に「日本語学習」を開催しています。

千葉市在住タイ人は五百四十名が登録され、千葉県全体では、五万人強が居住しています。その人々を対象にチラシを千葉市役所、各区役所の外国人登録窓口に掲載して貰



日本語学習案内ポスター

いスタートしたのですが、まだ生徒数が最低目標の十名に達しておりません。今後口コミでの応募増を期待するほか、タイ成人の受け入れも検討し、最終目標である千葉市内でのタイ人コミュニケーションに貢献したいと念じております。将来的には千葉市とバンコク市との友好都市化、引いては姉妹都市化を夢見ています。皆様のご支援をお願いします。

会の現状

(平成二十年八月現在)

- ◎ 会員数 九十二名
- ◎ 派遣国

- ◎ 指導分野
- 農林水産、鉱工業、商業・観光、人的資源、計画・行政、公共、保険・医療の各分野

役員人事

今回の総会で平成二十年役員として、次の諸氏が選出されました。

- 会長 品川洋之助 鎌ヶ谷市
- 副会長 黒田昭太郎 柏市
- 副会長 山本茂穂 千葉市
- 事務局長 上田義晴 千葉市
- 幹事 後藤優 「会計」 千葉市
- 幹事 増田定雄 「開発教育」 千葉市
- 幹事 横田勝徳 「開発教育」 千葉市
- 幹事 津田正臣 「総務」 千葉市
- 監査 酒井國彦 「会計監査」 千葉市
- 退任 梅谷陽子氏 同氏には当会の創立以来、役員としてご尽力戴きました。

イベント参加報告

JICAシニア海外ボランティア春募集活動に協力

四月十三日(日) 船橋市中央公民館、四月二十六日(土)千葉市幕張メッセでの春募集「体験談&説明会」に協力、会員計八名をパネリスト、よろず相談員として派遣しました。



よろず相談員 (船橋市中央公民館)



パネリスト (千葉市幕張メッセ)

「第二回協力隊まつり」に出展
平成二十年四月十九・二十日にJICA地球ひろばで開催

された青年海外協力協会主催のJICAボランティア経験者による第二回協力隊まつりに出展参加しました。

統一テーマとして「地球がふるさと」守ろう地球の環境というスローガンが掲げられ、当会ブースでは環境保全分野で活動した会員の現地活動写真パネルを展示し、スタンプラリーに環境問題のクイズを提供しました。



ブースで活躍中の当会会員

山武郡横芝光町での出前講座に講師派遣



横芝光町寿大学で熱演中の藤家会員

八月二十一日開催の寿大学で藤家 梓 会員が「海外ボランティアを通して見える日本」というテーマで講演されました。受講者は約九十名、講演はユーモアに溢れた内容で、受講生の質疑も活発でした。

グローバルフェスタ Chiba 2008 に出展参加

八月二十三日(土)千葉大学けやき会館に於いて、千葉県、(財)ちば国際コンベンションビュロー、JICA、Unicef 主催で「グローバルフェスタ Chiba 2008」が開催されました。フェスタには国際交流・協力活動紹介コーナーが設けられ、当会もブース展示、国際理解クイズ実施、応募相談などで参加しました。



JICAよりのお知らせ

JICA海外ボランティア・青年海外協力隊秋募集説明会の会場、日程が決まりました

シニア海外ボランティア向け平成二十年秋募集「体験談&説明会」が次の場所、日程で行なわれます。シニア海外ボランティア、日系社会シニア・ボランティア、青年海外協力隊、日系社会青年ボランティアの各OB・OGの体験談発表や活動紹介ビデオの上映、制度説明などがあります。またOB・OGやJICA職員との個別面談、要請詳細情報などの資料閲覧が可能です。参加は無料で予約の必要はありません。

千葉市会場

十月十一日(土)

十時三十分〜十二時三十分
京葉銀行文化プラザ六階

JR千葉駅東口徒歩三分

船橋市会場

十月二十五日(土)

十時三十分〜十二時三十分
船橋市中央公民館六階

JR船橋駅南口徒歩七分

なお、青年海外協力隊の募集説明会は両会場で十四時〜十六時に行なわれます。また、十月七日(火)十九時〜二十一時にアミューゼ柏(柏市)でも開催されます。

関心のある方は是非ご参加下さい。また、関心をお持ちのお知合いの方にご紹介下さい。

CCB便り



秋はシニアボランティアの会の方々とイベント参加が多い季節です。

県内のイベント会場の設営、ブースでの説明、講師などのご担当の会員の皆様とお会いするのを楽しみにしています。

JICA千葉県国際協力推進員 木野本まゆみ

編集後記

会報(SVニュース)第九号をお届けします。できるだけ多くのシニアボランティアの諸活動を掲載したいとの方針の下、今号も限られた紙面に溢れんばかりの記事となりました。折角のご寄稿原稿を心ならずも短縮させて頂いたものもあります。現役をリタイアしても、各地で頑張っておられるシニアの皆様と共に本紙も歩んでまいりますので、一層のご協力をお願いいたします。

本紙へのご意見、ちば出前講座のお問い合わせは下記にお願いします。
千葉県JICAシニアボランティアの会
(The Association of JICA Senior Volunteers in Chiba)
04-7131-5830(黒田)
千葉県国際協力推進員
043-297-0245(木野本)
jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp